

2024年3月19日 高校と地域の連携強化戦略会議 議事録

政策企画課

日時：2024年3月19日（火）13時から14時30分

場所：安芸高田市役所2階 221会議室

出席者：上水流委員長、中間委員、牛来委員（WEB）、佐田尾委員、本多委員、福岡委員、永井委員、高下委員、和田委員、大里委員、桑田委員

作成者：坂本

事務局

ただいまから、安芸高田市高校と地域の連携強化戦略会議を開催させていただきます。議事までの進行をさせていただきます。政策企画課の佐々木です。初めに、上水流委員長よりご挨拶をお願いいたします。

上水流委員長

皆様こんにちは。2年間の最後のまとめの会議ということになりました。委員の方はご関心もあるかと思うので、吉田高校、向原高校の人数がどうなったかなと思われたと思います。まだまだ伸びしろがある状況かなという形にはなっておりますが、これまでの取りまとめを今後も継続していきたいなと思っております。また皆さまからご意見を頂戴できればと思います。よろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございました。本日の会議でございますが、1時間30分を予定しております。続きまして資料の確認をお願いいたします。お手元の方に配らせていただいております、会議次第、委員名簿、資料1としまして中学3年生アンケート結果について、資料2としまして戦略会議のまとめ、そして、前回の会議の議事録ということになっております。資料の漏れはございませんでしょうか。それでは議事の方、上水流委員長よりしく願います。

上水流委員長

それでは、会議次第に従いまして進めて参りたいと思います。最初に資料1の中学3年生アンケートの結果についてご説明を事務局からお願いいたします。

事務局

資料1 中学生アンケートの説明

上水流委員長

ありがとうございました。それではこの資料1の議題に関しまして、皆様から何かご意見や感想などを頂戴できればと思います。私の方から向原高校、人数的には3から5人の中で、選んだ理由として1人1人の影響が大きいんですけども、入りたい部活とか学校のイメージってのが出てきておまして、何か校長先生が進められてきたような努力が少し実っている感もあるのではないかなと思っております。

中間委員

第1にパッと頭に思い浮かんだのはやっぱり部活動なんだなと思いました。「部活動に活発に取り組むことができる」というのが44.4%になっているので、やはり人数を集めて、部活動の活性化っていうのは、欠かすことができないな改めて思いました。一方で、資格取得とかっていう本校商業科目でもあるので、商業の各種資格或いは英検関係そういった部分もやっていますけど、そこ

がゼロっていうのはちょっとショックです。

上水流委員長

部活動のところもあるんですけど選んだ理由の中で、他のところはやっぱり一定程度を学びたい興味関心になるという、本来持っている教育機能ですよ。数がそれなりにありますが、例えば向原高校は2年続けて0だったっていうところで、今どんどん先生方がいろんなチャレンジされていますけど、多くの人に伝わってないかなと思いつつ見ていました。

私自身はこのアンケートは非常に良いなと思っています、いろんな傾向を知るっていうことで、これも継続的に取っていただいて、必要に応じて関係者の間で利用してもらいながらですね、議論をしてもらえればと思います。高校の魅力とか傾向とかも、掴めていけばいいのかなと思います。吉田高校は、思った以上に数が減っているっていうのが正直なところで、そこも含めて少し継続的にこういうアンケートを取りながら見ていただければという思います。

高下委員

アンケートの項目で追加したらとか、もしあれば教えてください。また1年後になりますが。今何か思いつくものがあればと思います。今ある部分は継続して取ろうかと思っています。

上水流委員長

今日の会議の終わりまでに出していただいて結構ですし、今でなくても、お休みの後でも大丈夫です。

和田委員

オープンスクールにどれだけ参加したかというのはあった方が良かったかなと感じがします。見に行っているのかが分かると思います。

高下委員

どこに参加したか、何回とかですかね。

和田委員

吉田高校と向原高校のオープンスクールに参加しましたかが見えてくると良いかなと思いました。

上水流委員長

進学とかどの時点で決める感じですか。

大里委員

大体もう秋ぐらいにはもう早い子は決めています。けど最終的には3年生の12月末に決める感じですか。

和田委員

夏休みまでのオープンスクールにどれだけ行ったかという判断材料にしたかどうかと思います。

上水流委員長

そうすると、3年生にアプローチするのは夏までってことですよ。

桑田委員

オープンスクールまでが勝負だと思います。

中間委員

向原中の桑田校長先生から、1学期に1回オープンスクールをやったら良いんじゃないかというご意見いただきました。来年度は1学期に1回、夏休みに1回、秋は入試説明会ですが、中学生が本校を見る・聞ける機会を設けようと思います。

桑田委員

時期が集中してしまうと、向原高校だけでなく他の高校も見たいと思う生徒が他所に行ってしまう。だから時期ずらして向原高校が先にオープンスクール単独でやると、地元の高校だしまず行ってみようと思う確率が増えると思います。

上水流委員長

大学もちょっと調整していますね。広大、県大、市大が被らないようにしています。

中間委員

どうしても中体連の関係を考えてしまって、それが終わってからと今まで考えていました。中体連の大きな県大会、二つ終わってからとなるとどうしても土日が潰れてしまいます。もう割り切って、1回目は1学期にやろうかなと思っています。

桑田委員

今、部活動は土日どちらかを休みにするようになっているので、そのあたり地元と考えているのであれば、甲田向原白木中学校の部活動が無い日あたりを事前にリサーチしていれば、設定しやすいかもしれないですね。

上水流委員長

他にございますでしょうか。はい、それでは他にも追加することがあれば、まだ事務局の方にご連絡いただいて、アンケートを継続していただく予定です。よろしく願いいたします。

では続きまして議題の2ですね、戦略会議のまとめについてということで、これも事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局

それでは資料2、A3番の資料の説明をさせていただきたいと思います。

戦略会議、2022年の6月に第1回としてスタートをさせていただきました。まずはこの戦略会議がどのように進めていくのが良いだろうかとこのところ辺りから、これまでは県立高校そして安芸高田市という自治体、また安芸高田市の中にある関係機関企業をそうした皆様が一緒になってどういことができるだろうかとこのところから、スタートを切らせてもらっておったと思っております。そうする中で、2022年度に5回の会議を開催。そして、2023年度もこれまで4回の会議、また本日第5回目ということで、当初から2年間の期間をもって進めていこうという時期を定めた、この会議の運営としていきましたので、いよいよ本日がまとめの場になってまいろうかと思っております。いろんな議論を積み重ねていただきまして、2年間の間で前進した取り組みというのもの、割とあるのかなというふうに感じさせてもらっております。漏れているものもあるかもしれませんがそういうところはまた後程の議論でいただくこととしまして、一つずつそのことを振り返ってみたり、確認をし合ったりできればなと思います。

2年間で前進した取り組みということで、まず一つ目として中高連携というテーマを挙げさせてもらっております。こちら、委員の中にも市教育委員会また中学校の校長先生にも途中から加わっていただいて、実際に前に進んだ部分もあるのかなというふうに感じさせてもらっております。項目としましては、部活動を一緒にやっていくことで、身近な先輩というようなイメージが湧くん

じゃなかろうかというあたりが前に進んだところかなというふうに思っております。また先生同士の交流ということで、実際にお会いいただいている所を見させていただくと、割とやっぱりテーマがいろいろと出てくるもんだなというようなところで、生徒指導の研修とかも一緒にやったよというようなこともご意見としては、いただいたかなと思っております。また、高校の先生が中学校の先生に高校の説明をしたり、そうした先生同士の交流だけでなく、高校生が中学生たちに授業の中でファシリテートを行ったり、学びの中のアドバイスをしたりというような場もあったよというようなところも教え、思っておるわけでございます。

続いての項目の情報発信というところでは、会議の序盤になりますでしょうか、やはりなかなか高校の取り組み、ここでの活動の様子が伝えきれてないんじゃないかというような課題意識を、ご意見としていただいております。こちらの方、補助金を活用してという形で、書かしてもらっておりますけれども、両校ともホームページの一部リニューアルを行われたということで出してもらっ

三つ目の学力の向上のところでは、やはり、どうしても都市部と比べると、安芸高田市には塾などの民間のものが少ない、どうしてもその辺は地域格差が生まれるんじゃないかというようなご意見、公営塾というようなお話も出ていたかと思っております。そうする中で、スタディサプリという、ソフトを活用することで、そうしたものを解消していけないだろうかというような取り組みでありましたように、向原高校におかれては同窓会の会員の皆さんの協力によって、無料塾が実施されるようになったというようなところですね、お話として伺って実際にも動きが始まっているということでご報告もいただいているところかと思っております。

続いて、高校生自身が高校の魅力化を検討するというテーマです。やはり、生徒たちが自ら受けるような仕組みというのがいるんじゃないか、生徒達の思いを形にというようなところも、この場でも会議の中でも検討していただいていたかと思っております。こちらの方、今年度から生徒が決める100万円事業ということで具体化、応援をさせてもらうことができるようになりました。今、補助金の仕組みを、生徒会長を中心とした生徒会、2年生から3年生になる代の生徒会の任期をとらえて、考えていただくということで、実際に予算化できたのが12月ということで、我々の方に申請書を出していただいた段階になっています。今から具体化に向けて、大体7月くらいまでを目途に進めていただくようなスケジュール感で動いていただいておりますけれども、吉田高校では、文化祭の充実のためということと、校内に食べ物の自動販売機が欲しい。そしてそれを食べる飲食スペースを充実させたいというような、提案が出て参っております。そして、向原高校は、向原高校のことをより知ってもらえたり、地元の中学校だけでなく、芸備線沿線の中学校の生徒の皆様、保護者の皆さんに高校のことを知ってもらえるようなフェスを、開催したいというようなお話を伺っております。5月下旬くらいの開催というふうにも計画聞かしてもらっておりますけれども、そうした内容のものを実施できたことで、今準備、計画を進めてもらっているというところになっています。

そして、続いて地域連携の学びのサポートというテーマで、高校と地域、行政をつなぐようなコーディネートするような人材がいてくれたらというようなご意見をいただいております。こちらを地域おこし協力隊員にやっていただくことができないだろうかということで、今年度の地域おこし協力隊のミッションの中にテーマとして挙げさせてもらって募集をかけました。残念ながら、採用の人選までは行かれていませんので、形を整えたというところまでしか今のこの会では報告できないんですけども、3月末から再募集という形で募集をかけさせてもらっていきたく思っております。ですので、もし良い人材がいればぜひともこの地域おこし協力隊として、学校運営、学校の取り組みをサポートしてもらいたいような人材に要望していただければなと思っております。

最後の柱が各高校の魅力化を応援というところでは、2年前、この2022年度から高校応援プロジェクト補助金ということ、市の方からの応援の具体的なものとして、準備させていただきました。先ほどもホームページのリニューアルといったところもありましたけれども、それぞれの高校で、特徴ある取り組みに使っていただいております。この補助金の活用ではないんですけども、安芸高田市の特徴的な事業ということで、サンフレッチェ広島の全校応援の機会を今年度から設けていただき、一緒に取り組みを進めてきました。今年度は吉田高校と一緒に、来年度は吉田高校向原高校で全校応援をしていこうということで今、それぞれの高校と打ち合わせをさせ

てもらっております。補助金事業としまして吉田高校で言えば、広報の強化ということで、高校のPRする動画の作成というところでありましたりとか、ニュースポーツ用具の購入といったところを申請としてやっていただいて、向原高校で言いますと、地元の方々との協力協働した取り組みということで、米粉を活用したプロジェクトや、福岡さんにもご協力をいただいているSDGsを踏まえたカーリングの取り組みといったところが、特徴的な取り組みとして行っていただいております。

また、補助金事業じゃなく、地元の同窓会だったり、地元の方々との連携ということで、無料塾の開講であったり、下宿を準備していただいて、地域外からの生徒を向いようというなどという取り組み。そして、会議の中でも出ました英語力であったりグローバルな人材を育成していこうというところからの派生事業と捉えさしてもらってますけども、多文化共生に関わる取り組みということで、安芸高田市国際交流協会との連携、それと社会に出たときに身につけさせる力ということで、企業連携によるデジタルスキル育成講座といったところが、今年度スタートまた来年度に向けて準備をされておられるところかなと考えています。このような、いろいろなテーマの中で2年前から比べると、前に進んできたところかなあというものを挙げさせてもらいました。来年度に繋がるところとして、市の方が2024年度の予算に計上している内容を挙げさせてもらっています。

高校応援プロジェクト補助金ということで、新年度の予算の中に466万円あまり、今計上をしております。高校魅力化分ということで、200万円、100万円×2高校、そしてスタディサプリ分ということで266万円。これは生徒人数ちょっと定員数のところを入れさせてもらっているのでもっと違っているかもしれませんが、1人当たり6160円の年間分ということで、計上をさせてもらっております。新年度予算には、生徒が決める100万円事業のところは、計上させてもらっていないんですけども、また生徒会任期が始まります9月に向けて補正予算等でちょっと対応というのを今では予定をしているところです。

続いて、地域おこし協力隊。先ほども採用が決まってないということをお伝えしてもらいましたが、もしも再募集でこの高校応援の隊員が決定すれば、430万円あまりの費用を計上させてもらって、それとサンフレッチェ広島の全校応援のところでは、バス代として100万円あまりの予算を計上をさせてもらって、というようなところが現在、市の方での予算の関係の情報でございます。

上水流委員長

はい、ありがとうございます。

それではこの議題について意見交換をしていきたいと思いますが、今日は吉田高校の校長先生がいらっしゃらないので中間校長先生からプラスアルファでこんなこともやっていますっていうのがあれば、先に教えていただければと思います。

中間委員

次年度に向けて市から補助金いただいて本当感謝しています。吉田高校に遅ればせながら学校紹介動画の作成をするように今進めております。実際動き出すのは4月から撮影等に入っていく予定です。動画を作成し広報活動に使っていく方向で今進めております。あわせて地域の中に、一定のニーズがあるであろう、留学生を受け入れる方向も探れないだろうかということで同窓会と話をさせてもらっています。いわゆる入学者選抜を受けて高等学校へ入学する方法と、編入学っていう2種類の方向で入学が可能になります。留学生を入れていくって、端的に言えば世羅高校のような感じですが、そういった形も探っているところです。ただ、これは相手があることなのでなかなか実現するかどうかは分かりません。後は生徒が決める100万円事業ですが、本当ありがたい限りです。生徒たちが学校を知ってもらう、向原高校があることを知ってもらうために、生徒会長を中心に考えておりますので、応援したいなと思います。

上水流委員長

ありがとうございます。取り組みの方も追加していただいたお話でございました。今後も継続していただきたい活動について議論を進めていければと思っております。最後なので、皆さんも一言ずつ頂戴したいと思います。

牛来委員

2年間でいろんな取り組みを始め、進んでいることは素晴らしいなと思いつながらできることはたくさんあるなどお聞きしておりました。その中で一つ質問ですが、この生徒が決める100万円事業が素敵だなと思っています。フェスというのは若者らしい発想だと思いましたが、これを決める生徒たちに考えてもらう段階で、ファシリテーターというか、アイデアをさらに広げる、外からの何か刺激みたいな何かやられていますか。これだけの予算があるわけで、生徒たちが自由に発想できるのであれば、先生方や大人が想像もしないような、何だこれみたいなものが出てきたら面白いなと思いますが、取り組みの中で今どんな感じで進めているのでしょうか。

中間委員

生徒会長を中心として生徒が4人ぐらいのチームを作り、そこで検討をさせています。生徒たちは全校生徒に働きかけてアイデアを募り、出てきたものを自分たちで検討して、実現可能なもので取り組みを考えている段階です。ただ、お金が絡むことでもあり、施設を予約するというような相手方との関係もありますので、教職員1人を相談役としてつけております。当初は生徒の案を見たときに十分じゃないなど、不十分だなと思ったりして、こっちが口を出したりしてしまっただけですけど、大人が入ってはいけないという指導も受けながらですね、入らないことにしました。相談役の先生と子供たちだけで考えてくれるようになって、今はもうそれで進んでいます。実際生徒会長とか生徒だけで決めるのは難しいですが、こっそり保護者の方に相談しているという風に聞いています。

牛来委員

生徒を中心というそのスタンスはとても素敵ですが、やっぱりもったいないなと思いました。最初の段階でそうはいってもキーマンとなる生徒会の人と、生徒たちにそのアイデア、発想の仕方や枠組みにとらわれないアイデアを出す手法、そういったものを1度やった上で何か進められると、もっと面白いものが出てくるのではないかかと思いました。新ビジネスを創出するためのセミナーや創業者のビジネスプランをブラッシュアップするとか、やっぱり自分のビジネスプランとか新しいサービスの発想のところは、こうだからできないとか限界を自分で決めてしまっただけで発想してしまうので、最初にそれをパーツと割ってあげるっていうことをするんですよね。生徒さんたちなのでそこがないのであれば、今の方法で全く問題ないと思いますが、私の知った方法っていろんなものがあるので、ブレインストーミングやKJ法もあるし、そんなツールも使えるというか、方法を最初に教えてあげてどんどん広げる、そういう刺激はあっても良いかなというふうに思ってしまったので質問してみました。

高下委員

この補助金を渡した側の意図とどういう形で始まったか少しコメントします。校長先生の方からも話していただいた通り、大人が入らない形という、自由な発想。例えば、思ったようにそのアイデアが出なくて苦労したとかそういうことも含めて、生徒たちの学びになるので、極力大人に入ってもらわないようにということをお伝えさせていただきながら進めてきました。市長この補助金を直接渡す上で、上手く行かないとかっていうふうに思うことも、学びになるし、大成功したらそれは言うことないということをお伝えした上で、年明けからアイデアを出されてこういう方向でいいのかなというのが今出てきた段階です。牛来さんが言っていたように、確かにどういう手法があるよとか、その道具を渡しておくっていうのは最初あってもいいなと今お聞きして思ったところ

です。今年は極力生徒たちを原則にしてやってきていますけども、最初その道具があったらよかったねということがおそらくあるかなと思いましたので、次の時にはそういう点は追加していいかなと思います。

上水流委員長

今の部分で思うのは、もう一つの考え方として普段の違う授業の中で、そういうものを学べるような場所があって、そこで100万円もらってやってみたときに、応用できればいいなというふうに思いました。100万円渡されるワクワク感っていうのがあるので、失敗してもいいんじゃないか、失敗できるっていうのはやっぱり若い子の特権になると思います。ただ、牛来さんがおっしゃったように何かそういうツールをどこかで知る場っていうのは、あってもいいかなと思いながら聞いておりました。

桑田委員

地元からの進学を上げるかというところを、昨年度今年度のテーマとしてやってきましたが、そのためにはやっぱり向原高校を知ることが一番かなというふうに思っていました。教員も知るのも一つの方法ということで、お互いの授業を見るということから始めたんですが、今はやっぱり生徒が向原高校を知ることが大事ななと考えています。今年度、本校から最終的には向原高校に五名入学させていただくことになりましたが、これがきっかけになればなど。それまでは一年生が1人、2年生が2人、3年生がゼロという状況でしたが、男子生徒ばかりなんですけど、今年入学するこの5名は、野球部が4名と卓球部が1名で卓球部の子が野球部に引っぱり込まれて入部しそうな勢いなんですけど、そういった形でそこが突破口になって後輩たちが続くというような、向原高校のいろいろな情報を中学校で話してくれて、後輩たちが続く流れができればいいなというふうに思っています。

以前から体育祭を合同でと考えており、実は向原中学校の生徒に3年生がいるときに、合同体育祭についてどう思うかというアンケートを全校に取りました。全体的には否定的な意見の方が多く学年によっては違ったんですが、一番肯定と否定が近かったのは、新3年生が一番差が少なく、一番大きかったのは一年生でした。イメージが湧きづらかったっていうのもあると思います。また一年生その理由として、多かったのが、高校生に対して怖いというイメージを持っている。体格差があると思います。そういった意味でも、高校生と繋がりを作る。だから高校生を知っているのが大事ななというふうに感じました。私自身も体育祭今年度、見るまではイメージが湧きませんでした。実際、体育祭を見て少人数の生徒が全力で取り組んでいる状況を見て、高校と中学校の種目を幾らかクロスしながらやっていくと、時期も時期なんで熱中症対策になるかなというのも正直ちょっと思いました。中学校も、65名弱の人数で体育祭をやりましたが、その人数だと競技をするときに、常にスタンバイしているか出ているかで休みが少なく、疲労度が高いなっていうのもあったりする中で、高校と似たような種目とかもしていたので、高校と中学校が合同でやれば、お互いに休憩する時間もあったりして安全面も図れるのかなと思い、取り組んでみようと思ったんですが、中学生自体がその高校の体育祭をイメージができてない部分もあるので、今年高校の体育祭できれば見に行ってみて欲しいというようなことを投げかけたりしたんですけども、体育祭が一緒にできないんだったら何か高校と一緒にできることができないかということで今、生徒会執行部の方で来年度、高校の生徒会執行部同士になるかもしれませんけれども、その中高の繋がりを持つ、作るというか一緒に何かをするというところをどんどん増やしていけたらと思っています。あとは、今年度向原高校の新聞に8回乗ったんですけども、それは毎回切り抜いて、職員朝会で職員に紹介して、各学年の方に掲示してもらおうというような形で、生徒に少しでも向原高校を身近に感じるような状況が作ればなど地道に取り組んでいますので、それはぜひ継続していきたいなというふうに考えています。

上水流委員長

ありがとうございます。本当にまさしく、すごく良いことに展開してるなと思いながら聞かしていただきましてありがとうございます。

大里委員

今年度6割の生徒が吉田高校に進んでくれればいいなと、目標を持ってやってみました。今年度は51%の卒業生が吉田高校に進学ということで、特に大きかったなと思うのが、部活の合同練習です。これは今までやってきたんですが、今年度はその回数を増やしてきました。野球部の顧問の先生が、野球に興味を持っている中学生と話をしたりする中で5、6人の生徒が吉田高校の野球部で頑張りたいということで進学しました。また大きかったのが教職員との交流ですよ。探求科というのが分かっているようで分かっていなく、保護者や生徒に職員がちゃんと説明できていなかったんですが、吉田高校の先生に来ていただいて探求科のレクチャーを吉田中学校の教職員にしてくれたおかげで、そのことをもとに保護者や生徒に、探求科というのはこういう科で、こういう勉強ができるんだよというのを、結構説明ができたというのが大きいかなと。アンケートの結果を見ても、「将来就きたい仕事に関係する学習ができるから」、「入りたい部活動があったから」というのは、若干の成果かなというふうには思っておりますので、来年度もちょっとこれはぜひ吉田高校と連携しながら継続していきたいなというふうに思います。

上水流委員長

ありがとうございます。続いて、お願いいたします。

和田委員

吉田高校と向原高校がそれぞれ地元の中学校と連携したことで、市内の中学校全部がもうちょっと高校との連携の場を持ったらよいのかなという感じました。このアンケート取ってもらっている中で、今年度は市外の公立高校に行った数が、今までより増えてきています。子供の数が減っているのに、高校の定員がそんなに大きく変わっていません。入試制度も変わったこともあり、市外へ行く子が多くなり、これまでは不合格になるような子が合格しているような状況もあるかなということもちょっと思っています。先輩が行くと自分も行けるかなと思うのが、もう自然の流れだと思います。だったら学校としてきちんと見に行くというようなチャンスをオープンスクールで来た人が行きなさいじゃないようなシステムを、作っていくと何か繋がるのかなと感じました。

上水流委員長

ありがとうございます。正しくそういう取り組みを展開できればいいなと思いました。これまでの取り組みについて一言ずつ頂戴してるところでございます。今来ていただいたばかりなので、最後に永井委員にお話いただきますので、ちょっとしばらくお待ちいただければと思います。佐田尾委員お願いします。

佐田尾委員

今まで出ていない話ですけど、中長期的なことを少しお話できたらと思います。向原高校と吉田高校で両校を両立させるためにどうするかということで、将来的に少子高齢化、過疎化の流れが加速したときに、2校が成り立たないとか、安芸高田市1校でいいんじゃないとか、それはどんな話が出てくるかわかりませんので、そういう時に備えた安芸高田市としての構想をやっぱり準備しておかなきゃいけないのかなというふうに思っています。最近新聞で読むと島根県の江津市では、江津高校と江津工業高校が統合するという動きもあるし、最悪のケースを避けるといいますか。そのためにも今後は必要ではないかなというふうに思います。山口県においては、県立高校の再編がかなり進んでいます。

常に5年先10年先ぐらいを見て、安芸高田市としてのまずビジョンを持つ必要があるのかなと思いました。

上水流委員長

ありがとうございました。長期的に見るようなことを思うと同時に今我々ができることってやっぱり各高校の魅力をアップするという。今後をどうするか、県がちょっと考えることなので何とも言えないところではありますけども、いずれどうなるにしてもその各高校の魅力がないと、来てもらえないのは間違いないので、長期的な目を見ながらそういうことも一緒に考えていければと思いました。

本多委員

高宮中学校の話ですけれども吉田高校の生徒さんがこういった学校だよっていう説明会があって、市内6校ある中で高宮中学校だけの話になります。非常によかったと。こういうところまで目を向けて、お兄さんお姉さんが仕切って話ができ環境は、高宮中学校は小規模校でもありますし、知っている人も含めたくさんの人がやってきたっていうことに関しては非常によかったんだろうなと思いました。先ほど5年先という話も出ていましたが、中学校の統合もある中で、今度は1中学になる可能性が非常に高いです。どういった関係性を築いていくか、高校の問題もある中で中学校が今度は1中学になるタイミングは、人がものすごく地方に置いてしまうのではないかという懸念も考えられるかなと思います。そういうところへのフォローも考えていかないとゆくゆくはその地域の高校は視野から外されてしまう可能性があるよねっていうので、中学校の統合におけるところの、片方に関して見ればちょっとデリケートな問題だと個人的に考えております。良い形だと安芸高田市1高校、1中学校ということになれば、連携が非常に取りやすく情報伝達がしやすくなると思うので、そういったイメージも今後としては、作っていける環境が必要ではないかなと思います。高校を知らない、状況がわからないっていうところが、今の中学生にとってみればインターネットの時代とはいえですね、自分が進んで、多くの情報をあまり見てないというような状況もあると思いますので、それは中学校、先生方も含めて、こういう高校があるんだよっていう情報提供的なところは、知っていただく環境もあるかなと思います。例えば、お知らせのプリントがあればQRコードでも入れておけば保護者の方も見られたりだとか、そういったきめ細やかな情報の発信というものが、今後必要になってくるかなと思います。逆にその情報が、今はやっぱり飛んでくる時代でもあると思うので、いくらでも拾える環境を自分たちが構築してやっぱりこう情報発信して行って、知っていただくっていう環境を作っていく必要があると感じています。

上水流委員長

ありがとうございます。QRコードをつければ、そこから見ることもできるので、何かしらそういうようなことも考えられたと思ったときに、今一つの中学校になるって話は私も聞いておりますけれども、その中で問題になっているのが交通ですよね。交通をどういう風にしていくかという話があったと思うんですけども、高校の場合もやっぱり親御さんが送ってとか迎えに来てって話は、ずっとこの会議で出ていて、交通体系の充実についていろんな形で議論が出てきています。安芸高田市さんの方でも、交通体系の見直しを今図ってきている途中っていうようなお話もあったので、そういうことも含めて考えていただきたいと思いました。

福岡委員

向原高校が取り組んでいる地域連携の授業をしている人たち、ドローンの授業等の商品開発の事業とガーデニング事業と、向原高校卒業生と同窓会の会長さんと一緒に集まる機会がありまして、皆さんそれぞれに向原高校が地域にあることってすごく私たちも恩恵を受けているよねっていうようなことを確認し合うような作業だったんですけど、その中で皆さんが持っている高校への愛というのがありまして、直接高校に通ったことがなかったり、生徒と触れ合う機会もちょっとだけある

だけなんですけど、来てくれた高校生に魅力的な高校生活になってもらいたいなと思ったときに、すでにある地域の資源をどういうふうの魅力に編集してお伝えするのかっていうことが、地域にいる人たちもできることだよねっていう話に、なりましてこの会議自体は今日で最終回だと思うんですけど、向原町民としてはそういうふうに関わっていくことができたかなというふうに今日改めて思いながら、この会議に参加させていただいています。具体的に高校が残るために入学する人たちの増やす在籍している人数を増やすっていうことが、すごく具体的な目標でそれがないと次に行けないということはもちろんありながら、地域の人たちの担える部分って何だろうと思うと、行きたい高校になるかどうか、行きたい高校としての魅力を、どういう風に協力してお伝えする流れというか接点を作っていけるかっていうことが、チャレンジできる場所が必要かなと改めて思いました。

上水流委員長

ありがとうございます。地域に支えてもらうってことは非常に、高校において重要なことだと思います。はい、次高下委員をお願いします。

高下委員

戦略会議をやってきて成果っていうところでいくと、市としてはやっぱりきちんと応援する形で予算をつくれたというのは一番よかったなと思います。2年間で前進した取り組みで挙げられているところで、やっぱりこういう取り組みが必要という整理ができたということは大きかったですし、あと使い方を決めない形での応援の仕組みであったり、学力がやっぱりその魅力づくりの根底にはどうしてもなるよねっていうところだったり、はっきりしてきたかなと思います。2024年度の予算については、2023年度で始まったことなども、概ね継続していきそうですし、ずっと永続的というふうなことにはいかないでしょうけれども、その成果や現状というのは、それぞれ聞かせていただきながら、しっかり応援できるようにしていかないといけないなと思っています。安芸高田市にとっては、やっぱりその高校が一番最後の最高学府ですので、魅力的であるっていうのはどうしても必要なことで、今は半分ぐらいが外に出ていっていますけど、残りの半分ぐらいは外から来るような形に行くようにしないとイケないだろうということを思います。予算を維持するためにも必要だというふうに思って、今後のところでいくとこの4番のところでの話にはなるんですけど、やはり中学と高校が連携していく形っていうのは、必要だというところは一つ、出てきている大きなポイントだと思いますので、取り組みのフォローだったり、提案だったりっていうことができる枠組みは何か必要なんだろうなというふうに思っています。

上水流委員長

ありがとうございました。しっかりサポートしていただくような体制ができたというのは本当に大きいなと思います。中間委員をお願いします。

中間委員

この2年間会議を通じて、本当に新しい視点というか、自分が思いつかないようなこと、いろいろアイデアをいただいて取り組んできましたけど、向原高校がまさに崖っぷちにある状況だからこそですね、こういった取り組みを進めていくことができたのかなと思います。同窓会とか地域の方の協力なくしては、絶対できないんですけども、本當ぎりぎりの状態の高校であるからこそ、考えないとイケないという背景もあって取り組みを進めて来ることができたなあとというふうに今思っています。確実にこれらに積極的に参加をして取り組んでいる生徒については、当然大事な力を身につけてくれていると確信をしています。しかし、多くの生徒がまだ他人事みたいのところもありますので、学校全体としてどうやって盛り上げていけるかっていうのは今後の課題でもあるし、こういった取り組みを、各方面にどうやって特色或いは魅力として広報していくのかっていう広報の仕方というか、そういった部分はさらにちょっと突き詰めてやっていかないと自己満足に終わっ

てしまうということもありますので、広報の仕方っていうのは考えていく必要があるなあというふうに思っています。ただこういった会議を通じて、この安芸高田市の中にはいろんなチャンスがあるなというふうに感じているのも確かですので、引き続いて連携をとらせてもらって、そういった学校の魅力っていうものに繋がるような取り組みを考えて実施をしていきたい、そしていろんな協力もしていただければというところであります。以上です。

上水流委員長

ありがとうございました。永井委員お願いします。

永井委員

まずは遅れて申し訳ありません。委員の皆さん全員の話を最初からお聞きしていないのでちょっと的外れたことかもわかりませんが、私はいろんな機会に発言をさせていただく時は、それぞれ申し上げてきたと思っておりませんが、キーワード的なものは年間を通した交流とか連携をする以外無いと思っています。というのは少し失礼な言い方になるかもわかりませんが、本当に今高校は中学校を知ってもらっているか、中学校は高校知ろうと努力しているか、ここに掛かっているような気がします。学校の最終責任者である校長は一生懸命ですが、それが教職員レベルで降りていった時に、果たして校長ほどの課題意識を持った一生懸命さが見られるかどうかということです。正直言って、それはかなりの温度差があるようにこの間見えています。一つには、地元率が下がって来ているということもあると思います。例えば先ほど吉田中学校の大里校長が言っていました、校長が60%の目標値を掲げても結局その60%には達していない。そのあたりに、何が課題としてあるかということですよね。従って、残すための高校で言えば魅力づくり、本当にそれを校長レベルで、全教職員が課題意識を持って取り組めるかどうか、中学校で言えば地元率がどんどん下がってきている中で、本当に高校を知ろうとしているか。知らないとやっぱり1人でもう、地元の高校へ進学するような生徒を育てるとということには、なかなかいかなと思っています。この間部活が一番手取り早いかなと思って部活の年間を通した交流をと発言をさせてもらったんですが、もう部活に限らず高等学校の魅力を中学校へ年間を通して伝える、中学校もまず教職員が理解をし、それを生徒まで下ろしていくという、地道な取り組み以外にないと私的には思います。以上です。

上水流委員長

ありがとうございます。そのきっかけを作っていただいたのは永井委員なのかなと思っております。私自身はこの2年間振り返った時に、二つのステップがあるなと思っています。

1つは第1ステップで市内からきちっと来ていただく体制だと思います。ここはかなりいろんな形で密な関係ができつつあるなど。でも各委員がおっしゃった通りやっていることをさらにやらないといけないことがあると思います。繋がりをきちっとつくれる体制は、徐々に揃いつつあるのかなと思います。それは、先ほど意見が出ましたようにもっともっと様々に増やさないといけないというはおっしゃる通りですし、すべての中学校が二つの高校のことを知れる機会を作らないといけないってこともそうだと思います。サンフレッチェ広島の応援も、こうなったら中学校も一緒に行ったら良いと僕は前から思っていたんですが、やっぱり同じことを体験して喜んだりするのはすごく親近感が湧くことなので、ちょっと高校生怖いなっていう印象が減るのかなと思います。とにかくいろんなことを中高一緒にやることは、今後安芸高田市にとっても中学校高校にとっても良いことかなと思います。そういう心を結びつける繋がりが一つ必要でそこはできつつある。もう1つはやっぱり物理的な距離、交通というのは非常に大事で、行きたいと思ってもやっぱり行けないと、親に頼るしかないとなると苦しいので、物理的な距離を縮めることも必要かなと思っています。

第2ステップは市外からどうやって集めるかということが非常に大事で、先ほど長い目で見れば1つの高校になるのではないかというご意見も頂戴して、正直言えば私が死んだ後に来るか死ぬ前に来るか、正直何かしらのことはあり得るだろうと思っています。そういうことも考えたときに市外から来ていただくのは第2ステップなのかなと思っています。その取り組みについては、まだま

だやっぴいかなきゃいけないことがあるだろうと思っています。1つは、教育機能ですよ。市外からも来たいと思えるような教育プログラムがないといけないだろうというふうに思っています。生徒の自主性やチャレンジできるとかいうようなことなのかなと思って聞いていました。さっきの生徒が決める100万円っていうのも非常に面白い取り組みで、県内の高校でどこにもないと僕は思っています。高校生に自分たちで考えてみてっていう。それもほとんどこっちは口出さないっていうことでやっている。失敗できるってことも大事だと僕は思っていますので、そういうようなことも含めて言うと、学べると同時に何かこうチャレンジできると、そのチャレンジが失敗してもいいというふうに思えるような魅力っていうのは非常に今ここで出てきている重要な魅力なのかなと思っています。学生の自主性を尊重して、そういうところを何か磨き上げていくとかですね、教育プログラムを作っていくことが1つの柱になるだろうと思います。もう1つ広報です。広報誌にも毎回高校の話が出ていたというお話でしたが、市外にどう伝えていくのかということ。私この前県の学校指導課でこんな取り組みをしていますよと話したら、知りませんでしたって言われて、ちょっとかなりショックでした。市外にどうやってこの良さを伝えてもらうのかっていうことはちょっと宿題になるのかなと思います。例えばフェスの開催についても、中国新聞でぜひ取り上げて欲しいと思いますし、NHKなどに来てもらってこのフェスを作るのを追っかけてほしいですし、こういう工夫やっていますっていう。これほど面白い取り組みをどう外部に知らせるかっていうのを本当に考えなきゃいけないだろうと思っています。もちろん、プログラムの魅力だとか、何かにチャレンジできるとかですね、その中身をちょっと練っていかないといけないことはあるんですけどもそこを今後どうやっていくのかっていうのが本当に重要で、市内の結びつきはすごくここで議論されているんですけど、市外からどう呼び込むかっていうことは、あまり議論されてこなかったもので、これは今後の課題かなというふうに思っています。ぜひ中国新聞含めてメディアでも取り上げて欲しいですし、何か届ける方法がないのかなっていうのが本当に思っているところです。これが私の考えているところとして、やっぱり委員会として安芸高田市さんの方にぜひお願いしたいということは、先ほど高下委員の方から出ましたけども、数年間こういう取り組みをぜひバックアップしていただいて、市内の中学校と高校が連携できるような場を継続的にサポートしていただきたいということはまず委員会としてはお願いしたい。2つ目は、その中でもぜひ高校生が自主的に自分たちの高校の魅力アップするこの件についてはですね、最後の最後まで残して欲しいっていう2つ目の私としてのお願いですね。これは先ほど言った市内の中の繋がりということと最後3点目は、何度も言ってますが物理的な距離で交通ということについて、中学校が1つになるってことは数年内に起こるんじゃないかなと思っていますので、高校生が親を頼らずに地元の高校に通えるかっていう視点でもご検討いただきたい。これがまず第1ステップ、3つのお願いになります。

第2ステップは、教育プログラムは高校側で考えられると思います。この取り組みや魅力を外部に伝える広報についてご検討いただきたいと思います。もちろんこれは高校側でされないといけないことであると思うんですけども、やっぱりこの魅力をどうやって市内に伝えるかということ、委員会ではちょっと結論は出ていませんが、ぜひ市側さんの宿題として、今後検討していただきたいと思いますし、これはあわせて2つの高校さんにですね、どういうふうに魅力を伝えるのかということで、あらゆるコネクション使いながらですね、もうメディアしかないのかなと思うんですけども、ご検討いただきたいなと思っています。委員会としての最終的に継続していただきたい活動とか、安芸高田市にお願いしたいことはこういうことかなあと思っていますんですけども、最終的にご意見があれば頂戴したいんですけどいかがでしょうか。よろしいですかね。何か最後、今日でこの会自体2年間終わるんですけど、おっしゃりたいこととかあればよろしいでしょうか。それではですね改めてですが、以上でこの2番目に関する協議を終えたいと思います。先ほど、申し上げたことを委員会から支援のお願い、また高校へのお願いということでの取りまとめにさせていただきたいと思います。残念なことに中間校長が加茂高校に行かれるということになっております。最後に挨拶をお願いします。非常にちょっと残念ですがぜひ、後任の校長先生にもお伝えさせていただいてですね、今言われた良い関係が継続できればいいなというふうに思っております。今年度の最後の数字を見た時には、私自身力不足で終わったなっていうところがありましてですね、そこは非常に

申し訳ないなと思ったところでございます。2年間、皆様にはご支援いただいたり、ご迷惑をおかけしましたけれどもいろいろとご意見いただきまして、誠にありがとうございました。最後、中間校長をお願いします。

中間委員

2年間継続して計10回のこういった協議の場を開いていただきそして参加させていただきましてありがとうございました。先ほども少しお話をさせてもらいましたが、私自身そんなにアイデアを持っているわけでもありませんので、なかなか学校活性化というところでどうしていけばいいかなお思って赴任しましたけれども、こういった会議を通じて様々な思いもつかないような視点、英語といえば向原だっというようなそういった言葉もいただいて、グローバルというような中で生徒たちはこれから社会に出ていきますのでそういう力は絶対必要だなと改めて思って、少しずつやってきましたけれども、その点については本当に感謝しております。ただ結果、数字としてなかなか現れなかったっていうのは、本当に力及ばずだったというふうに思っております。

本日、二次選抜が終わりました。昨日終わって今日合格発表を10時にいたしました。今年度の入学者選抜がすべて終了したという状況です。一次選抜で17名が合格し、二次選抜で今日合格発表3名合格いたしましたので、来年度一年生は計20名と、1名留年で下がってくる生徒がいるので21名になりますが、20というラインを目標にしたらいけません、県の示す2年連続して入学者が20名を下回るか、または全校生徒が2年連続して60を下回る、そうなったときには統廃合の対象とするという統廃合基準のところの一方をクリアすることができたということでその点についてはよかったかなと思っておりますが、20を目標にしたら当然いけないので、もっともっと学校が活性化していくって言う部分で言えば、部活動の活性化も含めてやはり人数が一定程度ないと、学びも当然深まりませんし、教育内容の充実というところにもなかなか難しいものがありますのでさらに、数を確保していく必要があるかなというふうに思っています。先ほど中学校の校長先生がおっしゃられたように高校生が怖いというような話もありました。確かに風貌が怖いのも現実におりましてですね、体が大きいだけではなくて、そういった本当に見て怖いそういう生徒が影響を与えているっていうのは少なからずあるかなというふうに思っております。そういう生徒が本校どうしても入ってきますけれどもやはり先ほどありましたように、高校として教育内容をどのように魅力あるものにしていくのかチャレンジさせるような、そういった環境をどう作っていくかっていうのを引き続き考えていきたいし、もっともっと考えていけないといけないということ、もう一つは、おとなしい生徒が本校多いので、高等学校の方に来れないような、そういった生徒も現実多々います。そういった生徒を高等学校で学んで力をつけて社会に出してやるためには、生徒たちが自分で自己表現できるような安心して学ぶことができるような場、そういった安心安全という学ぶ環境づくりを整えるというのも高校として、大きな使命として持っております。次年度の広報活動もまた4月から始めていかないと、当然また後手後手を踏んでしまってもいけないので早いスタートを切りたいというふうに思っておりますけれども、引き続きこういった会或いは安芸高田市の多大なる支援、そういったところですね、感謝しつつ来年度もお願いしたいというお話をさせてもらって以上とさせていただきます。

このたび加茂高校の方に異動することになりました。やむを得ない状況であるっていうのはあるんですが、新しいことを考えていくのって結構楽しいものがあるって、同窓会の方とか地域の方とか一緒になって、ワイワイ話をするのって非常に楽しいなというふうに実は思っていたところです。なかなか結果が出なかったんですが、そういった皆様にも感謝いたします。本当に2年間ありがとうございました。次の校長にはしっかり引き継いでおきますので、柏という女性の校長が来ますのでどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

上水流委員長

ありがとうございます。それではそろそろ時間となりましたので、本日の議事を終えたいと思います。本当に2年間、いろいろとありがとうございました。それでは、事務局にお返しいたします。

事務局

2年間、貴重なご意見を頂戴し、皆さんの熱意あるお言葉いただきまして、本当にこの会議が有意義であったというふうに心から思っております。本日いただきましたご意見を参考にさせていただいて、来年度以降に繋げていけることは繋いでいくということで、また整理をさせていただこうというふうに思います。本当に長い間、お集まりいただきましてありがとうございました。

以上を持ちまして会議を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。